

Strix 12 : 231-233 (1993)

オシドリによる橋脚の穴利用

川本美千夫¹・澤田千晶²・角 永登³

はじめに

樹洞営巣性のオシドリ *Aix galericulata* が巣箱を利用することはよく知られている (柳沢 1976, 小池・樋口 1989). 最近, 山口県においても弘中 (1993) によって, 巣箱での営巣例が報告された. また, 石垣の穴を利用して繁殖することは知られているが (清棲 1978), それ以外には, オシドリが人工構造物を利用して繁殖を行なったという観察例はない.

筆者らは, 中国山地の山間部を流れる川にかかる鉄橋の橋脚にある複数の穴のうち4か所をオシドリが利用し, そのうちの1か所では繁殖を確認したので報告する.

調査場所および調査期間

観察場所は, 山口県と島根県との県境を流れる深谷川にかかるランガー型の鉄橋 (深谷大橋) で, 玖珂郡錦町と島根県六日市町の境にある (図1). 橋は標高約400mの位置にあり, 長さが99.5m, 幅

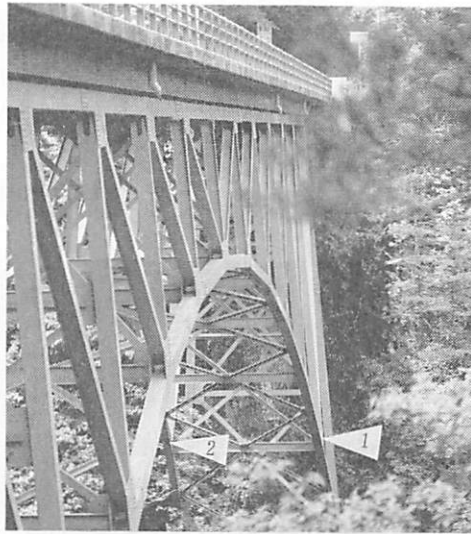


図1. 深谷大橋と巣穴の位置. 矢印1をオシドリが利用し, 2をブッポウソウが使用した.
Fig. 1. Fukatani oohashi Bridge.

Arrow 1 indicates the nest hole used by Mandarin Ducks.

Arrow 2 indicates the nest hole used by Broad-billed Rollers.

1993年12月27日受理

1. 〒745 山口県新南陽市日地町2-18, B-34
2. 〒741 山口県岩国市牛野谷町3-31-15
3. 〒740 山口県岩国市室の木町2-3-28

が6 m, 橋の通行部から水面までの高さが80mである. 川幅は約5 mである. オシドリの繁殖を確認した橋脚の穴は, 水面からの高さが67mで, 橋の通行部から13m下にある.

この穴をオシドリがはじめて利用しているのを確認したのは, 1993年6月12日である. その後, 1993年7月24日まで11日間観察を行なった. 観察に際しては, ノートに記録をとると同時に写真撮影とビデオ撮影を行なった.

結果および考察

6月12日の午前, 雌雄のオシドリが下流から飛んできて橋の梁にとまり, しばらくして雌が橋脚にある穴に入った. 雄は橋の梁にとまったままであった. その日観察したのはそれだけであるが, オシドリは橋脚にある穴で営巣していると思われた. 6月14日には再び橋を訪れ, この穴へ雌が入るのを観察した(図2). 同日午後の観察中, 橋脚には, ほかにこうした穴がたくさんあり, 橋脚の中央近くの穴でもオシドリの雌が出たのを確認した. この穴には約1時間後, オシドリの雌が入った. 6月16日には別の穴からオシドリの雌が出るのを確認し, 約30分後にオシドリの雌が入ったのを確認した. 6月17日にはそれまで確認した穴とは別の穴からオシドリの雌がヒナのような丸い形状の物をくわえて出るのを確認した. この穴には約30分後にオシドリの雌が入ったのを確認した. この橋脚の穴はブッポウソウも繁殖に利用しており(仁村 1979, 山根 1990), その時も1か所の穴はブッポウソウが利用していた(図1の矢印2). その後の観察はオシドリのヒナの巣立ちを確認するために, おもに最初にオシドリの入ったのを確認した穴に集中した(図1の矢印1). この穴からは, 7月23日午後1羽のヒナが出たのを確認した. その後, 雌のオシドリに続いて8羽のヒナが穴から出て, 合計9羽のヒナが巣立ちをした. しかし, オシドリの雌が出入りしていた残りの3か所の穴では, 巣立ちを確認することができなかった. 繁殖に成功したかどうかは不明であるが, 営巣に利用していたのは確実であろう.

深谷大橋の周囲の植生は, 橋より下の斜面はアカマツやモミなどの自然林であるが, 木の胸高直径



図2. 穴に入る雌のオシドリと近くで待つ雄のオシドリ.

Fig. 2. A female Mandarin Duck entering a nest hole, and a male waiting nearby.

は太いもので30cm程度である。そのほかもスギ、ヒノキなどの人工林が多く、オシドリの営巣できるような樹洞のある木は見あたらなかった。そのため、深谷大橋の橋脚の穴は営巣に適していたためにオシドリに利用されたのだろう。この穴は高所に位置するのでヘビなどの外敵の進入も少ないと思われる。しかし、原生林であっても、深谷大橋のように接近して巣穴に適した樹洞が5か所あることはまれであろう。したがって、自然ではふつつ分散して繁殖せざるを得ないだろう。観察は十分とはいえないが、深谷大橋の橋脚で4つがイモが繁殖していたとすれば、オシドリは自然の状態でも、ある程度の集団で繁殖しているのかもしれない。人工構造物に営巣することについては、巣箱を利用するのだから不思議はない。しかし、これまで人工構造物を営巣に利用した例が知られていないのは、巣穴そのものだけでなく、巣穴の周囲の環境が重要な営巣条件になることを示唆している。例えば深谷大橋のように高くても下が水域であるとか、人為的攪乱が少ないとかである。こうした営巣条件や繁殖行動を明らかにすることは、オシドリの巣箱の架設に役立つだろうと思われる。

引用文献

- 清棲幸保. 1978. 日本鳥類大図鑑Ⅱ. pp. 865-868. 講談社, 東京.
 小池重人・樋口広芳. 1989. 人工営巣場所の種類と架設効果. *Strix* 8: 1-34.
 仁村一男. 1979. 人工構造物に営巣する野鳥 (1). *野鳥* 44 (3): 45.
 弘中毅. 1993. 山口県内の水鳥の棲息状況調査報告書. pp. 148-152. 日本野鳥の会山口県支部, 山口.
 柳沢紀夫. 1976. 野鳥を庭に. 家の光協会, 東京.
 山根和親. 1990. 山口県版鳥類繁殖地図調査報告書. pp. 144-145. 日本野鳥の会山口県支部, 山口.

An observation of Mandarin Ducks nesting in holes of iron bridge piers

Michio Kawamoto¹, Chiaki Sawada², Hisato Sumi³

We observed that Mandarin Ducks *Aix galericulata* were nesting in the holes of iron bridge piers of the Fukatani-oohashi, located on the boundary between Yamaguchi Pref. and Shimane Pref. It is the first record of this species nesting in holes of an artificial structure, apart from those of rockwork around rivers and ponds. We found that Mandarin Ducks used four holes of the piers as nesting places, though it was in only one hole that we observed fledglings in July, 1993.

1. Hijimachi 2-18, B-34, Shinnanyou-shi, Yamaguchi 746
2. Ushinoya-cho 3-31-15, Iwakuni-shi, Yamaguchi 741
3. Muronoki-cho 2-3-28, Iwakuni-shi, Yamaguchi 740